

みなとのニュース

函館港若松地区クルーズ船岸壁供用記念式典の開催について

北海道開発局 函館開発建設部

函館市と国土交通省北海道開発局函館開発建設部は9月27日ダイヤモンド・プリンセス(約11万6千総トン、乗客乗員約3千8百人)の入港に合わせ函館港若松地区クルーズ船岸壁供用記念式典を開催しました。

式典には主催者として大泉函館市長、岡下函館開発建設部長らが出席。来賓として佐藤英道衆議院議員、逢坂誠二衆議院議員、横山信一参議院議員ら約80人が出席し、クルーズ客船のおもてなし実績のある遺愛女子中学・高等学校の吹奏楽局の演奏が行われ、供用記念式典を祝福しました。

函館港若松地区において整備を進めてきたクルーズ船岸壁は、2016年に着工し、2018年には4万総トン

級までのクルーズ船に対応した暫定供用を開始し、翌年には入港回数の4割にあたるクルーズ船が若松地区を利用してきました。

本年3月には、延長360m・水深10mの岸壁と、ターミナルや駐車場などの関連施設の整備が完了し、11万総トン級のクルーズ船が利用できることになりました。

クルーズ船岸壁が完全供用した本年度の函館港へのクルーズ船寄港は、北海道内1位となる49回を予定しており、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の47回を超え過去最高となっております。

来賓の方々から函館港への期待を述べられ、最後に来賓や関係者によりくす玉開披が執り行われ、供用を祝いました。



8月25日撮影



9月27日撮影(函館山より)



くす玉開披(12名) 左より、福澤遺愛女子中学・高等学校生徒、鈴木国土交通省北海道開発局港湾空港部長、西村国土交通省大臣官房技術参事官、福島遺愛女子中学・高等学校校長、横山信一参議院議員、佐藤英道衆議院議員、逢坂誠二衆議院議員、池田北斗市長、折谷みなとまちづくり女性ネットワーク函館代表、佐藤国土交通省北海道局港政課長、大泉函館市長、川村遺愛女子中学・高等学校生徒